

雪国植物園

雪国植物園には、長岡市の多雪地帯の里山エリアに自生する植物が 850 種以上あります。里山とは、人々が伝統的に農耕、木の実や山菜などの採集、薪集めを行った山麓の地帯です。天然資源の使用は、地域の生態系の保護に役立つ持続可能な方法で慎重に管理されてきました。技術の進歩と都市への人口移動により、里山は人々の日常生活の一部ではなくなりました。適切な手入れ不足でこれらの繊細な生態系は次第に過剰に生い茂りすぎ、外来種によっても被害を受け、その生物多様性が脅かされています。雪国植物園は、高山植物や海岸植物、外来植物、観賞植物などのない、バランスのとれた里山の環境を維持することに力を入れています。装飾的で綺麗に手入れされた庭園と比べると、この場所はいくぶん野生的に見えますが、訪問者が景色を探索し、学び、楽しむことに時間を費やせる本物の自然環境を提供しています。

雪国植物園の開園期間は、3 月中旬から 11 月中旬まで、開園時間は午前 9 時から午後 5 時までです。入園料は大人 400 円、学生 50 円、就学前児童は無料です。ガイド付きツアーは電話での事前予約制です。ツアーの期間は 1～2 時間で、日本語で行われます。

四季を通じた在来種の楽園

雪国植物園では、春から秋にかけて、複数の在来植物が咲き誇ります。春の代表的な花としては、雪割草 (*Hepatica nobilis* var. *japonica*)、カタクリ、ヤマザクラ、カキツバタなどがあります。夏はエゾアジサイ、キキョウ、ネムノキ、数種類のユリなどの植物が見られます。秋に花を咲かせるのは、アカバナ、ヒガンバナ、ムラサキシキブ、リンドウ、ツツブキなどがあります。植物園には、80 種近くの鳥、45 種の蝶、40 種のトンボ、森林動物であるウサギやタヌキなど、年間を通じて様々な鳥や昆虫やその他の動物が見られます。

長岡のシンボル「雪割草」

雪国植物園が特に保護に力を入れている植物の一つは雪割草です。英語でヘパティカ、パーズアイプリムローズとも呼ばれます。雪が解けると真っ先に現れる花の一種で、春の訪れの象徴とみなされます。ピンク、白、青紫色で地面に近い低めの位置で咲き、季節の移り変わりを色鮮やかに告げる花として里山の斜面を覆い尽くします。雪割草は生息地の減少と乱獲により希少になってしまいましたが、長岡市では雪国植物園や妙法寺、国営越後丘陵公園などで大切に育てられています。

コミュニティのための場所

雪国植物園は、自然保護の推進に加えてコミュニティの場として 1984 年に設立されました。スタッフは主にボランティアで、その中には若い世代に知識を伝えることを目指す高齢者も含まれています。学生が園内で授業を受けることもあり、カブトムシの飼育など子供の興味を引くテーマの公開講座も

開催されます。6 月中旬から 7 月上旬の季節の特別夜間開園ではホタルが見られます。春と秋には「長岡野鳥の会」の後援のもと探鳥会が開催されます。